

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590100174		
法人名	医療法人社団和行会		
事業所名	洛和グループホーム大津若葉台		
所在地	滋賀県大津市若葉台30番25号		
自己評価作成日	平成25年6月1日	評価結果市町村受理日	平成26年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2590100174-00&PrefCd=25&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境のもとアットホームで、居心地の良い空間作りをしている。地域交流にも力をいれており、年4回グループホームだよりを発行、回覧板で地域のかたに見て頂いている。また月1回ふれあいサロンに参加、地域の夏祭り、お花見、敬老会に参加、昨年は富士見学区社会協議会と合同で認知症サポーター講座を開催。GH主催の秋祭りにも地域の方に多く参加して頂き楽しみにしてもらっている。これを期にGHの消防訓練など参加して頂けるようにしていきたい。
 人員の問題などで必ずしも利用者の希望が全て叶えているとは言えないが、出来るだけ希望に添えるよう各職員が日々話し合い考え支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は自然あふれる緑の多い落ち着いた環境の中にあり、利用者が自宅のようにゆったりと居心地よく過ごせるよう様々なことに取り組んでいます。職員は常に利用者の声に耳を傾け、利用者の思いを大切にし利用者本位の暮らしができるよう見守りながら支援を行っています。また、馴染みの場所やドライブ、食事、四季折々の花見など外出の機会も多くあり利用者の楽しみ事を増やしていけるよう取り組んでいます。職員間のチームワークは良好で日々連携を図りながら、会議の中でも活発に意見を出し合い、サービスの向上や業務改善等に繋がっています。また、事業所の理解を得るために事業所だよりを地域に配布し、事業所の秋祭りにも参加してもらうなど地域との関わりも大切にしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いあい 助けあい 笑いあい」という事業所理念を掲げ、利用者間・職員間・職員と利用者の関係・グループホームと家族間、グループホームと地域との関係の5つの関係性において、理念の実践できるよう取り組んでいます。	開設時に法人理念を基に職員間で話し合い、利用者や事業所としてのものだけでなく家族や地域への思いを広げ「思いあい 助けあい 笑いあい」という事業所独自の理念を作成しています。理念に沿ったケアが出来ているかカンファレンス等で振り返り、確認を行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方と顔を合わせた時には積極的に挨拶するようにしている。自治会に加入しており、地域の夏祭りやお花見、敬老会、ふれあいサロンにも参加しています。	気候の良い時期は散歩や買い物などに出かけ近隣の方と挨拶を交わしています。回覧板や民生委員等から、地域の情報を得て夏祭りや花見、などの地域行事に参加したり、事業所主催の秋祭りには地域の方の参加を得るなど交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に対して年4回、事業所の便りを発行し、支所にて富士見学区社会福祉協議会と合同で認知症サポーター養成講座を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は自治会長にも参加していただき如何にして地域交流を図り、地域の一員となってゆくにはも含め、話し合っている。	会議は自治会長や地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催しています。大雨による土砂崩れ等の被害を受け、近隣の方の手伝いを得たことを通して災害対策についての話し合いを行い今後の対策についての協議を行っています。家族には議事録と次回開催案内を配布しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大津市の認知症相談窓口事業に登録している。	行政との会議や連絡調整は主に法人担当者が行い、必要事項があれば職員に伝達を行っています。行政からの研修案内を受け、できる限り参加しアドバイス等もらっています。手続き等の時には管理者が直接出向き関わりを持つよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束ゼロを目標としており、内部における研修もある。しかしながら左記の基準を職員全員が明確に理解出来ていないかもしれないものの、当たり前を守られる人権である事は理解できている。	管理者は法人主催の身体拘束予防の研修に参加しカンファレンスにて伝達を行うなど全職員への周知に努めています。玄関は施錠せず、出かけた様子が見られた場合は職員が付き添って出かけ、拘束のないケアに努めています。不適切な対応が見られた場合は管理者が注意を促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内にての研修もあり、参加し事業所で伝達研修もおこなっている。		

洛和グループホーム大津若葉台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内にての研修もあり、参加し事業所で伝達研修もおこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得出来る様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、直接的な言動の他、些細な変化からその思いをくみ取れる様努めている。 家族に対しては無記名の満足度調査を年1回実施。	利用者との日々の会話や様子から思いを汲み取り日々の支援に反映させています。家族からは面会時やイベントなどの来訪時に要望を聞くようにしています。意見を受け事業所内の臭気対策に取り組むなど、改善に向けて取り組み、お便りにて結果を報告しています。また家族へのアンケートも実施し、結果を報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に対しても、年1回の満足度調査を実施している。それ以外にも法人からのアンケート調査により、思いを伝えることは出来るようになっており、必要に応じて面談も行っている。	カンファレンスや日々の業務の中で職員の意見や提案を聞いています。休憩時間の確保や掃除についてなどの提案を受け、職員間で話し合い業務改善等に反映させています。職員の個別面談時も意見を出したり相談ができる機会となっています。また職員に対してのアンケート調査も実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	力量評価を行い、適切に職員自身を見極める様に努め、その能力に応じて職務を担当させている。また、法人内でのキャリアパス研修において、職員の質の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の力量評価を行い、必要な研修においては内部、外部問わず受講を勧めている。 また、法人内でのキャリアパス研修において、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では、研修や会議の場面においての交流が図れる様になっている。 外部では研修を通じての交流をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のこれまでの生活やこれからの生活への望みなどをしっかりと受け止め、安心できるサービスの提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いをしっかりと受け止め、本人の思いを受け止めるのと同様に、安心できるサービスの提供に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各家庭の事情もあり、利用に踏み切る理由は実に様々。サービスを利用しなければならないその原因を明確にすべく、面接の段階で話を聞くことにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症という状態ではあるが、なにより大切なのはその人らしさが尊重されることである。利用者と職員は、第一に人間同士としての関係性、信頼関係が構築出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービスを利用する事により、家族としての関係が希薄にならないよう、家族の関係がより良いものとなるように、本人を中心に関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との電話や、馴染みの美容室、店への外出や故郷へのドライブを行っている。家族に対しても、これらを理解してもらえるようにその重要性を伝えるようにしている。	友人への定期的な電話支援や親族の来訪時には居室へ通しておやつや抹茶を立てて楽しんでもらうなど、ゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮しています。馴染みの美容室や墓参りの送迎など希望に応じて個別の支援も行っています。また、年賀状を出して関係を継続している利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活を共に過ごす者同士、当たり前の関わりが出来る様、時に職員が間に入りながら自然に関わりが持てるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員が病院に見舞いに行くこともある。力になれることがあれば、支援して行きたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントツールにはセンター方式を使用し、必要な情報の集約に努めている。情報提供が受けられない場合などは、本人との係わりの中からその思いをくみ取るようにしている。	初回の面接で利用者や家族、ケアマネジャー等から、今までの暮らしや身体状況、意向等の情報を得てシートに記載しカンファレンスで本人本位に検討しています。入居後は日々の会話や様子等で知り得た情報を随時追記すると共に話し合い職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツールにはセンター方式を使用し、必要な情報の集約に努めている。情報提供が受けられない場合などは、本人との係わりの中から察することが出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族からの情報により、これまでの自分らしさを把握し、現状については日々様子やセンター方式等の情報も踏まえ把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にはどのようにして生活したいか？と自然な会話の中で尋ねる様にしている。家族には、プラン実施後の結果を伝えるとともに、希望を聞いている。また、医療職等にはその都度助言を頂き、計画に活かしている。	アセスメントや家族、本人の意向を基に介護計画を作成しています。日々の介護記録は計画に連動して記載されており、3か月毎のカンファレンスでモニタリングと評価を行っています。状況に変化がなければ6か月で見直しを行い、見直し前にはケアカンファレンスを開催し、必要に応じて医師の意見等を計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの実行は記録に明記している。その記録やカンファレンスでの話し合いから、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居により利用者がグループホームの生活に合わせるのではなく、今まで9人それぞれの生活があり個々のニーズにあわせ支援する必要がある。それぞれに合わせた制度や人員の基準等で必ずしも対応できないことがある。		

洛和グループホーム大津若葉台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と共に暮らしていけるように、地域へはふれあいサロン、自治会の敬老会、夏祭りに参加し顔なじみになるようにしている。グループホームに来て頂くために秋祭りを開催し地域の方に呼びかけをしてともに支え合って生活をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時の往診医を継続している方や、協力医療機関からの往診医が二週間に一度の定期往診、及び必要に応じて単発的な往診を受けている。急変時は24時間体制での支援が受けられるようになっている。	かかりつけ医はほとんどの利用者が協力医に変更されており、2週間に1度の往診があり、24時間連絡可能となっています。緊急時は医師の指示を仰ぎ救急搬送することもあります。受診については職員が同行しています。希望があれば月1回の歯科医の往診、週に1度の歯科衛生士の往診を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、看護師の訪問を受け、日常の健康管理を行ったり、健康上の相談が出来るようになっている。こちらも急変時など24時間体制での支援が受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟の相談員が情報交換をし、必要に応じて医師、看護師、作業療法士、理学療法士、家族、利用者、相談員、GH管理者などで話し合いの場を持ち早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人にて看取り指針があり同意を得ている。終末期と診断された場合、本人や家族の希望をふまえ、できること・できないことを見極めながら、本人・家族・往診医・訪問看護師・職員で話し合いを行い、支援が可能と判断できれば支援していく方針である。	入居時に、看取りについての説明を行っています。重度化した場合は医師や家族と話し合いを持ち、事業所での支援が可能であると判断した場合は看取りを行う方向にあり、かかりつけ医からケア方法の指導を受けたり、家族の協力も得ながら話し合いを重ね、看取り支援を行った経験があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人にて救命講習が開催され、全職員の受講を目標に今年度も取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回の自主的な防災訓練を行い、年に1回は消防立会いのもとでの訓練を行っている。 運営推進会議などで話し合っているが地域との協力体制を築くに至っていない。	2か月毎に事業所独自の防災訓練を行い、年2回昼夜間想定で消防署指導の下避難訓練を実施しています。夜間想定は1人体制時の避難誘導について、昼間想定は通報訓練を中心に実施しています。また9月の防災の日には、連絡網を通して災害発生時に職員がバイク、自転車、徒歩で事業所に到着するまでの所要時間についての確認を行いました。今後、地域の防災訓練にも参加する予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症である前に、一人の人間であるという当たり前の理解を忘れないよう意識し、その人らしさに配慮した対応を心掛けている。	法人主催の接遇・マナーやプライバシーに関する研修を受講することで職員への周知に努めています。管理者研修においても、応対方法など話し合うこともあります。個々の利用者に合わせた声の掛け方や信頼関係を築けるような対応に心掛けています。不適切な言動が見られた場合は職員間で互いに注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと話を聞き、信頼関係を築き自然に希望を表せるよう努めている。理解できる力に合わせて選択方式などで自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや希望にそった支援を心掛けているが、業務に追われていることも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は共に服を選んだりおしゃれをしている。美容室には入居前からの馴染みの店に行っている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材注文時は広告を見ながら一緒に考えたり、できることを引き出し調理、盛り付け、味付けなど一緒に行っている。冷蔵庫に入っている食材で何を作るか一緒に考えている。体調を見ながら食器洗いも一緒にしてもらっている。	当日、日勤職員が、新聞の折込広告や冷蔵庫の中を見てメニューを決めています。近隣のスーパーからの週3回の配達を基本に、足りないものは利用者と共買い出しに行っています。下ごしらえや味付け、配膳などできることに携わってもらい食事の準備を行い、同じ食卓を囲み職員も一緒に食事をしています。外食や手作りおやつも楽しみなものとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は、その摂取量をチェックシートに記録している。 箸の使用が難しい方にはスプーンを使用してもらうなどの支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの力に応じて口腔ケアの支援している。 今年度も毎食後の口腔ケアを目標としている。		

洛和グループホーム大津若葉台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助を要する方はもとより、一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導、夜間はポータブルトイレなど力に合わせた排泄介助を支援している。	日中はトイレでの排泄を基本とし、個人ごとの排泄チェックの記録を基にパターンを把握し、声掛けや誘導を行っています。紙パンツ使用の方が布の下着に移行したり、入居時には全介助であった利用者が、誘導を行うことで自力でトイレまで行くことができるなど多くの改善がみられています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をこまめに促したり、食事では食物繊維の多いものを摂取する出来る様に努めている。 必要に応じて、下剤の服用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のタイミングで入浴できるよう努めているが、前日入っていない方から声掛けをしている為、全ての思いに答えることは出来ない。コミュニケーションやタイミングを見計らい楽しく入浴できるよう努めている。無理強いはいないようにしている。	入浴は週2、3回を目途に時間等希望に応じて入ってもらっています。入浴を嫌がる人にはタイミングをみて声掛けすることで、全く入浴されなかった利用が週1回は入浴される等の変化がみられています。ゆず湯やしょうぶ湯などの季節湯を楽しんでもらったり、好みのや洗顔石鹸など使用されている方もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状況、習慣に合わせて声掛けをしたり、本人のペースに合わせて休息したり、良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は全職員が必ず確認するようにしており、その理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること・出来ないことを理解し、出来ることは継続して行えるよう、出来ないことはどこまで出来るのか？に見極めたうえで支援を行い、役割や楽しみが行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望にそった外出ができるよう支援しているが人員的な理由などにより、全ての希望に添えているとはいえない。	ドライブを兼ねて買い物に出かけたり、琵琶湖の周辺や神社などへ出かけています。桜やあじさい、紅葉狩りなど季節毎の外出や植物園など外出の機会が多くあります。年に1度、個々の希望に応じて好きな場所へ出かける個別支援にも取り組んでいます。地域の行事参加時には場所の確保など地域の方の協力を得ています。	

洛和グループホーム大津若葉台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望・力に応じて支援するように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、支援が必要な場合は対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間については季節の飾り物や、花など生活感のある空間作りに努めている。利用者に合わせて大きくなりがちなTVの音量にも配慮するように心掛けている。	利用者の集う共用空間は季節毎の利用者手作りの作品を飾ったり、月1回行う活け花を飾るなど季節感に配慮しています。温湿度や換気、音などにも留意し居心地よく過ごせるよう配慮しています。掃除は毎日行い清潔保持にも努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事務スペースの3人掛けソファは、気の合う利用者同士の語らいの場となっている。ハード面は限られているが、リビングでの席など、共有空間での居場所作りを大切に考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、家族の写真や花を飾ったり、使い慣れた家具や、大切なお仏壇など持ち込んでもらい、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	利用者はタンスやテレビ、本棚など使い慣れた物を持ち込まれ、家族と相談しながら配置しています。仏壇や縫いぐるみ、人形など大切なものもそばに置き安心して過ごせるよう配慮しています。カーテンは防炎の物で好きな物を持って来ています。希望に応じて、畳に布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、わかることの把握に努め、見極めをしながら居室等の表札や、トイレ・浴室内の手すりなどで少しでも自立した生活が送れるようにしている。		